

令和6年度第1回神栖市子ども・子育て会議 議事録

1 日時 令和6年7月19日（金） 午後2時～4時

2 場所 神栖市保健・福祉会館 本館2階 研修室

3 出席者 26人

(1) 委員 11人

佐藤栄子、平島幸子（委員長）、五十嵐武雄（副委員長）、川畑雄一
細田峰彰、中村宏、安藤美穂、武井麻美、田谷知子、丸山みよ子
石橋千代、高倉紀行

(2) 事務局 15人

4 次第

(1) 開会

(2) 案件

議案第1号 直接契約施設である認定こども園の利用調整方法について

(3) 報告

報告第1号 令和6年度認定こども園、幼稚園及び保育所の状況について

報告第2号 神栖市子ども・子育て支援事業計画（第2期）の令和5年度
実績報告

報告第3号 神栖市子ども・子育て支援事業計画（第3期）に係るアンケ
ート調査の結果報告

(4) その他

(5) 閉会

5 会議内容

(1) 議案第1号 直接契約施設である認定こども園の利用調整方法について

事務局から、資料に基づき説明が行われた。

委員からの質問・意見等はなく、承認。

(2) 報告第1号 令和6年度認定こども園、幼稚園及び保育所の状況について

事務局から、資料に基づき説明が行われた。
委員からの質問・意見等は、次のとおり。

【委員】

基本的なことかもしれませんが、待機児童ゼロなのに保育ニーズが不足しているというのは、どういうことでしょうか。

【事務局】

国が示している待機児童の考え方では、特定の保育施設を希望することを待機児童と認めておりません。これは、希望施設以外に入れる施設があると判断するためです。この考え方によると、神栖市の待機児童はゼロとなります。しかしながら、実際には特定の保育施設に絞って申し込まれる方がおり、入所できない児童がおります。当市としては、待機児童がゼロなので、何もしないというわけではなく、ニーズがありますので、この現状をできる限り解消できるよう努めていきたいと考えております。

【委員】

保育士の不足は何回か出てきてますが、それは改善されないのですか。何回か市ホームページで募集を見たことがありますが、それによって保育士は増えていないのか。

【事務局】

説明の中での保育士不足は、民間の保育士になります。民間の保育施設は、何とか保育士を確保しようと努力されていますが、難しい状況です。

なお、神栖市でも常に募集しておりますが、募集してもすぐ来るということはありません。やはり仕事の重さなどが影響しているのか、保育士のなり手が少ないというのがあります。また、障がい児が増えているなど、昔より保育士が必要ということで、市でも民間でも苦勞しているところです。市でも神栖市独自で処遇改善等を図って保育士を確保したいと考えていますが、現実的にはなかなか難しい状況になっております。

(3) 報告第2号 神栖市子ども・子育て支援事業計画（第2期）の令和5年度実績報告

事務局から、資料に基づき説明が行われた。
委員からの質問・意見等は、次のとおり。

【委員】

16ページのファミリーサポートセンターについて、私もファミリーサポートセンターに登録させていただいて、協力しています。令和4年より令和5年の方がだいぶ利用人数が増えてますけど、私の個人的な意見で、去年よりも倍ぐらいサポートすることが多くなりました。母親クラブの他のメンバーも登録して、お子さんを預かるなどして協力をしますが、やはり、まだまだ協力してくれる方が足りないですか。

【事務局】

お話いただいたとおりで、ここにも課題として書かせていただいたんですが、会員を増やすために助成金を始めたところなんです。金額的なところは、今後の検討課題です。せつかく、利用者数が増えているなかで、サポーターの数を増やしていきたいと思っております。

【委員】

今の付け加えになるんですが、ずっと20年くらいファミリーサポートセンターの仕事があるんですが、1時間650円はずっとこのままなので、もしできるのであれば利用者も少し負担してもらおう、そしてわずかでも時給が上がれば会員も増えるのではないかと思います。この見直しはなされないのか、考えてもいいかなと思っております。

【事務局】

おそらく、昨年の会議中でも助成金の金額については、話が出たのではと記憶しております。令和5年度から始まった事業ということで、今後の状況を踏まえながら、助成金の金額、利用者の負担についても検討していかなければと思っておりますので、すぐというわけではないですが、考えております。

【委員】

昨年、私の子が放課後子供教室を利用してまして、利用者としての感想を述べたいと思います。体験講座のときはすごく楽しそうに行ってましたが、普段の学習支援は学習に対するもので、おやつを除いて、あとは勉強のみでした。子が行きたくないと話したので、今年度から通っていない状況です。もう少し楽しみがあればと思います。

【事務局】

放課後児童クラブとの一体で実施しているため、放課後児童クラブと行ったり来たりしている子もいるかと思います。

平成30年頃の放課後子供教室は、市の教育委員会で直接実施しており、教員のOBをお願いして、学習支援のみでした。教員のOBに集まっていたくのも難しく、子どもたちも学校で6時間近く勉強した後に、また勉強するのかという意見もありました。こちらとしましては、委託事業者に任せている部分もありますが、学校関係者や保護者の方の声、保護者の声は子どもの声だと思っていますので、意見を取り入れながら改善していきたいと考えております。

【委員】

病児保育事業について、実施施設はすべて神栖地区だと思います。波崎地区における病児保育の実施体制の在り方を検討するとありましたが、具体的にこれから進んでいくものなのか、ある程度目途が立っているものがあるのか教えていただければと思います。というのも、教職員の中でも子どもが急な病気でどうしようもなくなることがあり、その方も波崎在住でした。波崎地区に病児保育の施設があれば利用できるのではないかと、こうした地域格差ではないですけど、神栖地区にはあるが、波崎地区にはないというのが解消されればいいなと思って質問させていただきました。

【事務局】

ありがとうございます。波崎地区ですが、現時点で、ある施設が実施を検討してしまして、相談を受けている状況ではあります。しかし、相談を受けているのは病児保育ではなく、病後児保育になります。この件に関しては、茨城県への確認などを進めている状況であります。また、当市の財政状況も考慮する必要があるまして、担当課としては波崎地区も実施したいと考えておりますが、財政部局と相談しながらになるかと思います。

(4) 報告第3号 神栖市子ども・子育て支援事業計画（第3期）に係るアンケート調査報告書

【委員】

このアンケート調査結果を、どのように利用するのですか。

【事務局】

現状、アンケート調査結果報告書が完成したばかりでございます。この後、神栖市子ども・子育て支援事業計画（第3期）の骨子案を説明させていただきますが、具体的内容は決定しておりません。これから受託業者である（株）環境総合研究所や各課と協力して決定していきますが、そのための資料として活用することになります。

例えば、今回、第2期計画の実績報告をしましたが、その際、これは計画策定時に決定した各事業の数量の見込みがもとになっております。第3期計画においても、5か年の数量の見込みを出しますが、第3期計画の数量を決めるためにアンケートの結果を活用します。